

対象	小学校高学年以上
教科	社会科
該当 単元	小学6年 「3人の武将と天下統一」 中学2年 「幕藩体制の確立と鎖国」
教科書	東京書籍・教育出版等
掲載日	2019.8.20. 朝刊二社 11版

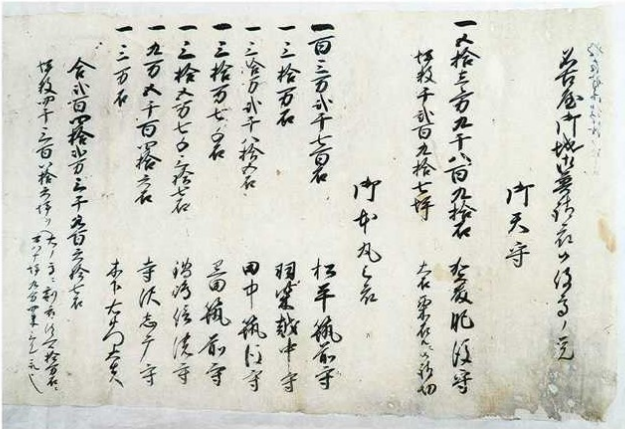
天守は清正の石垣 裏付け

名古屋城築城の古文書発見

「築城の名手」といわれた武将の加藤清正が、名古屋城天守の石垣を単独で築いたことを示す古文書を熊本大のグループが発見した。同大の稲葉継陽教授は「数々の城を築いた清正の技術の到達点が名古屋城天守台石垣。その価値が一次史料によって裏付けられた」と話している。（垣見洋樹）

徳川家康の命で名古屋城が築かれた際、清正ら大名に石垣の工事が割り振られていたことは、後世に記された文書でも示されているが、名古屋城調査研究センターによると、こうした事実が一次史料で確認できたのは初めてとみられる。

文書は、小倉藩の細川家から名古屋城の石垣の建造現場



名古屋城の石垣の工事の割り振りが示された古文書。「御天守」の部分に「賀藤肥後守」と書かれている。熊本大提供

熊本大教授「保全に配慮を」

丸は十一人の大名で分担した。

他の部分は複数の大名が分担する一方、最も重要な天守台石垣を清正が単独で担っており、その地位が際立っていたことがうかがえる。

タイトルは「名古屋御城御普請衆御役高ノ覽」で、縦三一・八寸、横一九四・九寸。熊本大は一九五七年にこの文書を含む松井家文書約三万点を入手。同大の永青文庫研究センターが最近調査していた。

稲葉教授によると、清正は熊本城を皮切りに肥前名護屋城（佐賀県唐津市）、朝鮮出兵時に現地で建てた倭城、熊本県内の七つの石垣付きの城を築いた後、最後に名古屋城を築城し、直後に亡くなった。稲葉教授によると、秀吉配下の武将の中で清正の石垣を築く技術は突出していた。

現在、名古屋市は名古屋城天守の木造復元事業を進めている。稲葉教授は「天守の復元で石垣の価値を毀損する可能性が少しでも想定されるなら、十分に配慮していただくようお願いしたい」と話している。

◇ 名古屋城天守木造復元事業は、石垣の保全をめぐって名古屋市と有識者の意見が食い違い、進捗が遅れています。事業をどう進めるべきかなどを五人の専門家に尋ねた連載「教えて 名古屋城」（計五回）を中日Web「QRコード」で読むことができます。

問1：発見されたのは、どんな古文書でしょうか。

加藤清正が、名古屋城（ ）の石垣を単独で築いたことを示す古文書。

問2：名古屋城を築くのを命じたのは誰でしょうか。

（ ）

問3：加藤清正について、「肥後守」とあります。肥後は現在の何県でしょう。

（ ）県

発展：地元にある城の歴史について調べてみましょう。

【活用にあたって】

加藤清正が名古屋城天守の石垣を単独で築いたことを示す古文書が発見されたという記事です。「江戸幕府の成立と大名統制」の学習に関わる内容です。

大切なことが二つあります。一つは「一次史料」という言葉です。清正が石垣工事に関わっていたことは分かっていたのですが、今回は一次資料で確認できたということです。歴史を研究する際に用いられる史料の重要性について、子どもたちに説明したいと思います。一つは、新聞活用の良さです。新聞は教室と社会をつなぐ「窓」だと言われていきます。400年前の出来事であっても、名古屋城天守木造復元事業に見られるように、現在とつながっています。新聞は教室の学習を社会の動きと結び付けてくれます。

解答例

問1：天守

問2：徳川家康

問3：熊本

発展：犬山城、岡崎城、岐阜城、岩村城、伊賀上野城、松阪城などたくさんあります。まず地元になんな城があるのか確認し調べましょう。